

## ふるさと野菜のおすそ分け 通信 vol.113 2013年11月21日号

あっという間に秋なのです。すっかり色が変わってきたなと思っていたら、次の週には赤色がグンと増えて燃えているような大自然の美しさです。まだまだ激しく雨も降らないで風もきつくないで、寒さも厳しくならないでと祈るような気持ちで毎日願っています。大自然の中の色使いは、どうしてこんなにも美しいのでしょうか。

### 京丹波町長瀬地区

黄色が多かったところがすっかり赤色に染まっています。冬のお野菜たちは白菜が真っ盛り。「今年の白菜どれ植えた？」とお母さん達の話から、沢山種類があるのだと知りました。数種類どころではなく、調べたところによると、150種くらいは在るのだそうです。50とか60、・・・75とか90という数字で言われても何のことか・・・それらは全て種を蒔いてから収穫できるまでの日数を表した白菜の種だそうです。どう違うのかさっぱり分かりませんが、形や大きさや、黄色く色がついたものなどの違いの程度でまだまだ味の違いなど分かりませんが、どれも新鮮でいい土からできたお母さん達の愛情たっぷりの白菜たちは美味しさに決まっていますね。



### 京丹波町西河内地区



普段でも静かな風景の中で、厳しさを増してくるこの時期、益々落ち着いた凜とした空気感を漂わせているところです。

雪でも降れば寂しくなるような寒さよりも、大自然の一部に人間達が生かされているのを感じられるくらいの恵みを感じられるところです。その中で、お年寄りの方々はここで生まれ育った人もいれば、若い時にこちらへ住むことになった人達もみんなが力を合わせて村を守ってこられました。その団結力があっての強さを感じます。

凜とした空気は、この自然と共に人の心も表しているのかもしれないね。暑さ寒さの環境は変われど、何年も変わらない風景がここにはあります。



南丹市・美山町大野地区



大野ダムでは今月 16,17 日に毎年恒例のもみじ祭りが開かれました。このあたりの整備された木々の美しい紅葉は見事です。黄色や赤の絨毯のような落ち葉の中で繰り広げられる催し物も、都会の喧騒を忘れさせてくれるでしょう。どこを切り取っても絵になって、写真を撮るにも楽しい雄大な風景はまだまだ見どころ満載です。軒先につるされた柿もよく見られる光景。懐かしい癒される気持ちになるのは何故でしょうか。

## 京丹波町高岡地区



稲刈りの後の光景は、こんな感じで燃やされて煙を出している光景が見られます。最初見たときはどこかのネイティブインディアンの集落かと、儀式かと思いました。きっと火をつける際にも長年行われてきたやり方があるのでしょうか、筒になった煙突はすすだらけでいい味出しています。夏に獲れたオクラたちは最後このような姿になるのを始めて見ました。そのまま食べられるほどの柔らかいオクラが、すっかり怖い存在になっています。産毛が棘のように形も威嚇しているようです。これらの種をまた収穫して来年また美味しく育っていくのでしょうか。

## 南丹市殿田・木住・生畑・中世木地区



おすそ分けを出荷されている富沢みちこさんの農場に京都聖母女学院短期大学の食物栄養化の教授1名と学生4名が農業体験のため来られました。富沢さんの息子さんの富沢崇志さんから小松菜の植え付け、伏見とうがらしの収穫を手ほどきを受けました。おすそ分けのメンバーの吉田隆市さん、吉田陽子さんもお手伝いされました。秋の世木の里の紅葉もまた一段と深まっています。



ご参加・ご意見・お問い合わせは下記まで ふるさと野菜のおすそ分け事務局

〒621-0242 京都府亀岡宮前町神前上長野2 (有)篠ファーム内 **購入参加者 11/21 現在 93名**

TEL0771-26-0811 FAX0771-26-0822 e-mail [info@shinofarm.jp](mailto:info@shinofarm.jp)

ふるさと野菜のおすそ分け通信は右記のホームページでもご覧いただけます。 <http://www.shinofarm.jp/furusato.htm>